

平和に暮らしたいから、今声を上げる！

憲法を生かす阪神連絡会

奥山 篤



はじめに

アメリカ、イスラエルの国際法を無視した、突然のイランへの軍事攻撃、それに何の抗議もしないどころか「世界に平和を作れるのはドナルドだけ」と擁護する発言をした高市首相。就任以降、軍事費の増大を始め、兵器の輸出、自衛隊基地の強化など戦争する国へと突き進んでいます。これに対し今全国各地で「NO WAR!」「戦争反対!」「平和憲法を守れ!」とペンライトを掲げた集会やスタンディング行動が広がっています。振り返って「憲法を生かす阪神連絡会」は西宮において約3年前にイスラエルがガザ軍事侵攻をした時に、他の市民団体と一緒に「もう黙ってられない、みんなで行動!」を立ち上げ、市民派議員や、立憲野党の市会議員にも参加を呼びかけ、街宣行動ではマイクを持ってもらうなど、「市民と野党の共同行動」の形のなかで、反

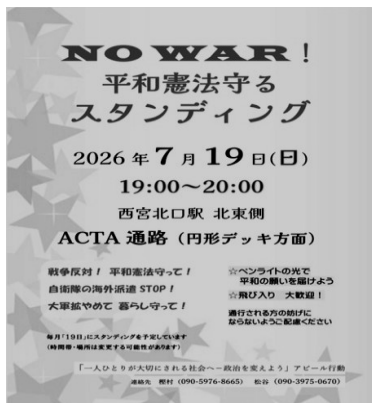
戦、平和運動に取り組んできました。

「NO WAR!」のスタンディングに

若者や女性、さらに親子連れの姿が

そして現在、「NO WAR!」のスタンディング行動を先述の「もう黙ってられない、みんなで行動」と一緒に取り組んだ市民団体で再び「一人一人が大切にされる社会へ」政治を変えよう!」緊急アピール行動として新たに立ち上げ、4月から6月にかけて毎月一回、SNSや「デモカレンダー」などで幅広く参加を呼びかけながら取り組んでいます。これには毎回100名前後の参加者を数え、その特徴として多くの若者や女性、さらに親子連れの姿も見られ、年代を越えて市民の間で高市自・維政権のもとで日本が近い将来戦争に巻き込まれるのでは、との不安が広がっていることの表われだと思

◆特集 全国に広がる「ペンライトデモ」



ます。一方で若い人たちの参加が多いことに、呼びかけた私たちが元気をもらっています。

新聞に掲載された参加者の声

新聞社も取材の要請に応じてくれて、参加者の声を掲載してくれましたので紹介します。

「このまま戦争をする国になってしまおうのではと怖くなることもある。いまならまだ声を上げられる。居ても立ってもいられない思いで参加した」。「障害者の問題意識から『戦争になると生きていられなくなる』だから反対だ」。「子供の未来がどうなるのか心配で、出来ることがしたい」と思い参加した」。

ペンライトに「平和な世界、一生推す」とのメッセージを書いて参加した女性は「みんなと平和に過ごしたから。こっちを見てくれた人もい

たのでわかってもらえたらいいな」と話されていました。私がこの行動の中で一番に想うのは、「戦争への不安」や「平和の内に生きたい」との人間なら当然の思いを日常生活の一部分として、行動に参加し、一緒に成って声を出す、行動する。このことが参加者の姿や表情から見えるということです。これは民主主義の基本的な姿ではないかと私は受けとめています。

参加者と有機的な繋がりを持つて広げよう

今後について「一人一人が大切にされる社会へー政治を変えよう」の会議において当面は月一回のスタンディング行動(国会前の行動に合わせて19日)を継続していくことを確認しています。その上で課題は参加者との間に有機的な繋がりをどう作っていくのかということです。言うは易しで簡単なことではないですが、継続していくなかで例えば交流会や、学習会などの開催のための議論を併行してやっていきたいと考えています。

最後に全国各地で「市民と野党の共同行動」はこれから更に拡大していきますが、その行動に私たちも連帯していることに勇気や喜びを感じます。みなさん広げましょう。

(おくやま あつし)